

刊夕日四十

發行所 東京城日報社
電話 東京三三三六
電報 東京三三三六
電話 東京三三三六
電報 東京三三三六

東京市四谷區本村町八番地
香誠堂
振替東京三一九二主

東京市四谷區本村町八番地
香誠堂
振替東京三一九二主

藥學生募集 短期速成
四月一日ヨリ新學期開始
第一期生募集 男女共約百名募集
高等小學卒業以上 年約二十名
長崎縣立第一高等學校
朝鮮藥學講習所
詳細は市内藥店にて問合されたい
電話二〇四三番

店員募集
一數名入用にて付希望者は
本人直接來談あれ
(但し當地在住の確實なる保證人二
名以上を要す)
京城明治街
唐川吳服店

京 城 漢 江 通
廣 橋 京 春 自 働 車 組
京城發午前十時 泰川發午前九時
京城發午四時 丁目二番地
電話二一九番 主務 金正清

蚊帳製綿卸
本號上は不殘指
紋入シヤコ員
本號上は不殘指
紋入シヤコ員

基石
本號上は不殘指
紋入シヤコ員
本號上は不殘指
紋入シヤコ員

東洋一流行の魁
本號上は不殘指
紋入シヤコ員
本號上は不殘指
紋入シヤコ員

靴と靴
本號上は不殘指
紋入シヤコ員
本號上は不殘指
紋入シヤコ員

内田報靴問屋
本號上は不殘指
紋入シヤコ員
本號上は不殘指
紋入シヤコ員

蘇^そ 峯^{ほう} 雜^ざ 話^わ

蘇^そ峯^{ほう}雜^{ざつ}話^わ

目下、清帝中の慈禧先生に、時勢に關する教を乞はれたため、一日臥室に在る醫藥居に參した。番茶を喫して、先生より多方面に涉り語話を伺ひ、啓發するところ海に多大。

小生一人の記憶に止めるのは惜しい次第で、茲に錄して讀者に御禮を付けをしたいと思います。

治の鐵山を持つて居たからであらう。近くは我國に於て、應原の秀衡が、東北に鎮守府將軍として威を振ひたるも、之は金鑛を信じたからであらう。生若丸は奥州に伴ひたる金賣吉次なるものは、今日の社説で云へば、久原とか、三菱とか、古川とか、安用とか云ふ類であらう。武田信玄が甲斐の山國に介在しながら、其の武勇を天下に振ひたるも、甲州の金鑛を得たためであり。徳川氏の勢力の強大となつたのも、甲州及びては、朝鮮に銀鑛の話が聞かれ、朝鮮の歴史を見れば、餘り明國して銀を請求するが爲め、餘儀銀鑛を廢止したといふことが有る。此の如き鐵鑛も越境には發掘せられてゐる。何れに於ては、未だ幼稚の境涯を脱してあるから、前途について、斷言することは出来ぬが、昔少くとも大日本帝國の金庫である否らざるまでも金庫の礎である。

一、**朝鮮の鐵業熱**
此頃朝鮮には鐵業熱が騰上してゐるといふことを聞いて居たが、關間の汽船よりして既に滿山の鐵を鑛し、釜山京城間の汽船中では、密に鑛するといふけれどもダングステンと重石とかの言葉聞き、乃て愈々其の熱の所聞に違はず尋常ならぬことを感した。

又滿津家が其勢力を振ひ、今日に至るまで滿洲など云はるゝも、其の一是虎床に於ける海外貿易也、又は金山に因るであらう。近く更に英國の南阿非利加の如きも、要するに金銀の爭奪に外ならず。獨逸がモロッコの問題を提起したるも、該所に於ける鐵礦に目を著けたるに外ならぬのである。

○吾人は決して軍國主義を崇拜、歡迎せらるゝが然れども國家を維持せんといふ欲せば自衛防衛の固なる武裝を常にせし置かざる可きとは固より論を俟たず。

○英國は世界の自由國として家

て自分は、直覺的に朝鮮の前途は、
 義に在りといふを信じて居た。
 が爲めに、便々其意思を吐たこと
 あつた。昔の人は詩を作るよりも
 を作れと云ふたが、朝鮮の將來は
 を作るよりも金を掘れと云ふ時期
 来るであらうと思つて居た。我が
 内閣が、夙に鑛業の朝鮮に代表
 を見、内地の有力なる資本家に
 つて、其の勸誘を試みたといつ
 今、朝鮮に於ける鑛業界の一新
 元を作る基となつたであらう。

銀のみにて生存するべきものでは
 いけれども、亦之等のものを除却し
 て生存することは出来ぬ。米國の今
 日の大發掘も半ばは鑛業の發掘の由
 りものである。其勢力の太平洋沿岸
 に及ぶたも、畢竟カリフォルニア
 の金鑛である。墨西哥米國との間
 に爭亂の絶えぬのも、墨西哥内に於
 ける石油鑛が一つの原因となつて居
 るであらう。

朝鮮が鑛物に富んで居ることは、古
 い朝鮮の書物にも書いてある。今日
 著たる説例にあらずや。

て初め獨逸に對して實權を布告
 や盟つて獨逸の軍國主義を破壊
 れば已まずと絶叫せり。
 ○然れば獨逸の軍國主義は職
 の力を以てするも容易に屈服す
 能はざるのみならず軋もすればは
 て優勢ならんとするや、寧ろ先に
 主權の破壊を標榜する英國人に
 進み彼より軍國主義を誹らん先
 が從來の義勇兵制度を廢して徴
 度を採用したるが如きは豈に其
 著たる説例にあらずや。

典財は必ず金、銀と相作らうものであ
 と云ふて居る。彼は世界の有價な
 金、銀、支那の領域内にあるべし
 推し、之を占有したるものが、將
 世界霸權を振ふことになる云々
 として、朝野より長白山系にかけ、
 予將來に諸礦物の多大の發見をな
 てあらうと思はれる。其の長白山
 に起る民族が、國號を「金」と名
 たことからしても、其の方面に礦
 の多きことが想像せられる。日本
 帝國の富強は、金と鐵とに在り。

千佛山鑛は今歐陽中に在り。將來
 有望なりと云ふ。抑々金は世界に於
 て注目するもの、且つ内外の金銀
 關係より、變化しつゝあるは、これよ
 り少くも金のことにつき物語らん哉

六、金 (其二)
 東拓理事 村田俊彦

北條の山永 (10)

大概金を貨幣交換の媒介として
 用せり。されば金の通用力は、北
 條の經濟狀態を維つと、經濟強
 弱と表はるるに從ひ、其力益々強
 に天下無きの疾に當りては殆
 對のものと思へらるゝほどなり
 其餘人の金を貴重に過ぎ、
 之を以て貨幣の上位に置き、更
 上の上位に置かんとするもの
 に在り。前陽の金銀管を
 論を作りて曰く、錢體たる金
 あり。之を黠しむと兄の如
 字を方孔と曰ふ、德福くして尊

尊愛の發神論

發行所會社京城日報社
 大正通一丁目
 電話九六〇四
 郵政掛號第三六五號
 印刷部電話九六〇四
 電話掛號第三六五號

昨今の金融界、去月末納入
 にかへる國稅は、今、初より還、大國庫
 移轉せられ、今月上旬を以て其大國庫
 の結算を見たり、全國を通じて約三
 百萬圓と記され、既に既中、大阪、金庫
 納入せられたるは概算千二百萬圓、
 外として而して、去月中旬と今月上旬
 於て、露國邊勞の納入は、二千三百
 圓に達し、市庫金融は、少しく、
 すべし、機會、有しては、去月末の
 一、二、三、倍、た、今月上旬の形勢、
 し依然として、金融を、持し、無條件、
 六七厘月息一圓を、叩へ、一、二、三、倍、
 らるゝ、所謂爲替資金は、素より我が特
 設、銀行、若くは、數箇の内地銀行に於て
 其運用に、働かれ、又、主として
 低利なる外資の援用に、待つ、所、甚だ
 多かり、が、戰亂以來、外國市場の金融
 關係、著しく變化を、告げ、爲替作用の
 振幅も、亦、其趣を、異にし、近時、内地資
 金、益々、此方面に活動し、する、
 最も、注意する、現象にして、我、内地
 資金は、一面には、出超關係による、増加
 作用を、得、す、れども、他面には、爲替資金
 として、大に活動すべき作用の展開、
 する、あるを、忘るべからざるなり、
 (十一月廿九日)

作五六兩の碑で日先き尙軟弱なりと
し去月末開張の裏券二千百萬兩の
金銀還を見たるときは確に此の競
合銀價を保持する所見なれども更に
本原因として、其財貨貿易の更に
甚き例なり、當上半年は輸入の
も増進すべき時季なるに拘らず家
の輸出貿易の旺盛なるが爲め内貨の
市場を招致し金融は即ち緩にして金
の依然低率に徘徊せるものと觀測
せるの外なきなり、然れども海外爲
に從事する銀行は即ち冬季に於て
大手形の資金を以て金出手を行は

自兒輩呼伴來甲乙丙丁詭忽決把
握安作一丸投地弄之白團團一樹大
雲一霧大同心協力遠勢難、或摩或打
布與齊巧故端生達陣難、眼銀衆疊隨
飛、自合爲慈悲可景仰、正法速誦幾幾
難、戰夫殺幾金陵天、兒輩近志幾幾
以軍爲丸擬戰車、現御變觀安風立石
瑞四大無片納、成兒戲憐兒戲思又笑
行人錦衣興、兒童盡盡守寒山、向人能
似清溪盛、老嫗合學念佛去、何兒兒戲
現世間、達達四山鳥驚駭、街市漸臨滴
淋淋、王臨臨空不留影、昨幾九一年一時

進み得るに足し本銀の如きは輸入
幣減少せるため輸出監督の言
はれ市銀行の「コール」により補正せ
られ又日又棉花買付資金の如き
内地金融の緩慢なるを爲す關係
「電送」の方法により巧に運用せら
れ此の方針に多大の資金を吸収
した一般銀行の手許には漸次大
少を告げたりあると雖も就中爲株
行が其資の缺乏を感せるは顯著な
實証にして貿易の出超關係を持続
する此の傾向は終に停止する事な

之より日本列去夢遊在境病癒
無題 詩思 夢遊 朱憲 庚
人端入事地難知。既自遠違奈有離。
上蝶飛空自憶天。天涯關已多迷。
飲月並移影。片潮春潮兩時相愛和。
思何太苦不如無愛不相思。
之厚日一往情深。

一日俄傳聞投句規定
阿人にて、我は自ら當否を採らずマ學短
歌十數人との由、當時手紙を寄附願與ハ川
江紙を附して送る要す、余等皆若輩なり小く
持たず是に依りて女子師團の會館にて京越府
明治四十二年正月某日并東村梅崎の事

の海軍、ワストールは、經濟學に於ける金の價値を論じ、金の通力を過大視するなからんことを説き、世に一痛棒を加へたる位なり。

マタビスの飢

ワストール曰く、貨幣、金、銀、銅を爲すも、飢に垂んとするマタビスを救ふ能はざるにあらすや云々。マタビスを救ふ能はずは、古の小説の事實を藉り用ゐるものに於て、其小説に倣はる、マタビスはイブの王なり。王或時パツカス（ある仙人に恩を施せしに、パツカス忽ち化して黄金となる、韓國の果實を握るに、果實忽ち化して黄金となる、土塊、水滴、木片、飢るもの皆黄金とならざる無し。飢るもの禁ずる能はず、嚥くにして食堂に入る。卓上の波消し肴手に觸るゝ物亦皆化して黄金と爲らざる無し。爲に飲食するところ能はず。故に於て王大に悔ゆるところあり、更に此の力を除かんとを願ふ。仙人來りて曰く、之れ我が始め幾度か熟考を求めし所以なりと、遂に王をパツカス

婦人一生のたなみ一家経済の本

田所普通事務局長序文
東京女子高等師範教授 武田太郎吉先生著最新刊和装本
文部省教育検定試験委員

家庭 實用	武田裁縫書
----------	-------

頁餘百七數紙
十版真寫石繪
圖十五百三約需
錢廿圓壹

各級を通じて婦人一代を通じて、裁縫は大切なものではないか。馬子にも大工にも、裁縫の如く、人は衣服に山つて品よく、整くを見え、特に一家の経済上大利あるものである。本書は昔者、斯道に關する天啓となしたる最新裁縫自習書の權威を繼承し、多年の経験と熟練との結果を世間に普及せんとす。本書は、裁縫の如く、人は衣服に山つて品よく、整くを見え、特に一家の經濟上大利あるものである。本書は昔者、斯道に關する天啓となしたる最新裁縫自習書の權威を繼承し、多年の経験と熟練との結果を世間に普及せんとす。

學校家庭必備
受驗者必携

生に學ぶと同じく、技術の上で、裁縫の如く、人は衣服に山つて品よく、整くを見え、特に一家の經濟上大利あるものである。本書は昔者、斯道に關する天啓となしたる最新裁縫自習書の權威を繼承し、多年の経験と熟練との結果を世間に普及せんとす。

特價六拾四錢二割引期間六月十五日迄期間後は必ず定價に復す

新案特許 九八號 タイヨ一萬年毛筆 (定價八十錢)



本品は從來有り觸れたるものと異り頗る苦心慘憺の結果實に精巧無比の製作品なれば如何なる文字も如何なる紙質と雖も自由に書き得るは勿論構造堅牢にして永く使用に耐へ穂首は取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尙普通の毛筆より高尚優美にして一度墨汁を入れば端書三百枚迄は書き得れば携帯用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

右は今般全國發賣元タイヨ一商會と朝鮮全道一手販賣の分權所有者小野整三郎氏より其全權の委託を受け販賣を開始するに就ては此際披露として前記の特價二割引にて御需めに應じ候間至急御購求あれ

發賣元 京城太平通達丁口 振寄京城三〇〇番 京城日報社代理部

婦人世界春季増刊

郷里の譽

きやう ほまれ

見よ金剛山當選す

△見よ——興論の選定した天下の奇勝地
△見よ——我領土内の新風景地悉く網羅す
△見よ——記念碑・觀光團は何處に現はるか
△見よ——我領土内の新風景地悉く網羅す
△見よ——記念碑・觀光團は何處に現はるか
△見よ——我領土内の新風景地悉く網羅す

昨年十月以來熱烈なる試呼中に發行した投票一切の結果を発表す

本 日 新 二 景 選 外 發表

△諸國風俗名所並に料理各地の讀者より世人長篇家龍卷(其)大評判となり追霞亭
△庭小説
△下田歌子女史執筆雪中梅は一讀泣き者多し
△料理改良意見

村井弦齋

●六二三哲撰本社本日之業寅町屋南橋京東園五錢一税郵錢五十冊一行發日五月三

東京
株式會社

電話 二九番

見本申越々、上座皇
まゐりて、手勢に致
育のて見ても、敢
ても面白し。始、諸
東京小石川、林間、毛
コドモ社

電話番町六八番
板栗二九六番
一冊十二巻
六十六巻、二冊二
六十六巻、二冊二

丁良友 範加
常好 小學生徒
最好 賣物

池産株式會社
東京
電話二七番

海を極めて居る海運船は幾々皆所
乗船あつて初めて用をなすに
開きたり今や本校は彼等の活動

[illegible]

電話二二三九番
振替京城九〇九番

<p>騷動</p> <p>定價 一圓二角 洋銀八錢</p>	<p>文學</p> <p>定價 一圓二角 洋銀八錢</p>	<p>全書</p> <p>定價 一圓二角 洋銀八錢</p>	<p>調劑</p> <p>定價 二圓八十錢 洋銀四角</p>	<p>大生</p> <p>定價 一圓十二錢 洋銀二角</p>
--	--	--	---	---

京師南城山丁二目
朝鮮孤翁五座二一五號

10

橋農場

丁目(電話二〇一五番)

多金光堂

振聲口座七八二番

可^レを^レ得^ル近^クの^レ事^ニに^レ結^ス手^スと

可^レを^レ得^ル近^クの^レ事^ニに^レ結^ス手^スと

全北裡里 大橋農場

各國時計
自轉車
蓄音器

直輸入
卸商
喜多金光堂

京城賣金町二丁目(電話一〇一五番)
振替口座七八二番

圖は所存備未確定の爲め、現土
の五、九、百、二十、三、圖は、收復育
電氣鐵道線路を移轉すると同時に此
間復線に改線する事となり既に其能
の進行を要する事と爲す

[illegible]